

【D年】復活節第7主日(2024年5月12日)

【旧約聖書日課】列王記下 2章1~15節

1主が嵐を起こしてエリヤを天に上げられたときのことである。エリヤはエリシャを連れてギルガルを出た。2エリヤはエリシャに、「主はわたしをベテルにまでお遣わしになるが、あなたはここにとどまっていなさい」と言った。しかしエリシャは、「主は生きておられ、あなた御自身も生きておられます。わたしはあなたを離れません」と答えたので、二人はベテルに下って行った。3ベテルの預言者の仲間たちがエリシャのもとに出て来て、「主が今日、あなたの主人をあなたから取り去ろうとなさっているのを知っていますか」と問うと、エリシャは、「わたしも知っています。黙っていてください」と答えた。4エリヤは、「エリシャよ、主はわたしをエリコへお遣わしになるが、あなたはここにとどまっていなさい」と言った。しかしエリシャは、「主は生きておられ、あなた御自身も生きておられます。わたしはあなたを離れません」と答えたので、二人はエリコに来た。5エリコの預言者の仲間たちがエリシャに近づいて、「主が今日、あなたの主人をあなたから取り去ろうとなさっているのを知っていますか」と問うと、エリシャは、「わたしも知っています。黙っていてください」と答えた。6エリヤはエリシャに、「主はわたしをヨルダンへお遣わしになるが、あなたはここにとどまっていなさい」と言った。しかしエリシャは、「主は生きておられ、あなた御自身も生きておられます。わたしはあなたを離れません」と答えたので、彼らは二人で出かけて行った。7預言者の仲間五十人もついて行った。彼らは、ヨルダンのほとりに立ち止まったエリヤとエリシャを前にして、遠く離れて立ち止まった。8エリヤが外套を脱いで丸め、それで水を打つと、水が左右に分かれたので、彼ら二人は乾いた土の上を渡って行った。9渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「わたしがあなたのもとから取り去られる前に、あなたのために何をしようか。何なりと願いなさい。」エリシャは、「あなたの霊の二つの分をわたしに受け継がせてください」と言った。10エリヤは言った。「あなたはむずかしい願いをする。わたしがあなたのもとから取り去られるのをあなたが見れば、願いはかなえられる。もし見なければ、願いはかなえられない。」11彼らが話しながら歩き続けていると、見よ、火の戦車が火の馬に引かれて現れ、二人の間を分けた。エリヤは嵐の中を天に上って行った。12エリシャはこれを見て、「わが父よ、わが父よ、イスラエルの戦車よ、その騎兵よ」と叫んだが、もうエリヤは見えなかった。エリシャは自分の衣をつかんで二つに引き裂いた。13エリヤの着ていた外套が落ちて来たので、彼はそれを拾い、ヨルダンの岸辺に引き返して立ち、14落ちて来たエリヤの外套を取って、それで水を打ち、「エリヤの神、主はどこにおられますか」と言った。エリシャが水を打つと、水は左右に分かれ、彼は渡ることができた。15エリコの預言者の仲間たちは目の前で彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言い、彼を迎えに行き、その前で地にひれ伏した。

【使徒書日課】ヨハネの黙示録 5章6~14節

6わたしはまた、玉座と四つの生き物の間、長老たちの間に、屠られたような小羊が立っているのを見た。小

羊には七つの角と七つの目があった。この七つの目は、全地に遣わされている神の七つの霊である。7小羊は進み出て、玉座に座っておられる方の右の手から、巻物を受け取った。8巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、竖琴と、香のいっばい入った金の鉢とを手を持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖なる者たちの祈りである。9そして、彼らは新しい歌をうたった。

「あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、

10彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは地上を統治します。」

11また、わたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。12天使たちは大声でこう言った。

「屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です。」

13また、わたしは、天と地と地の下と海にいるすべての被造物、そして、そこにいるあらゆるものがこう言うのを聞いた。

「玉座に座っておられる方と小羊とに、賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように。」

14四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 7章32~39節

32ファリサイ派の人々は、群衆がイエスについてこのようにささやいているのを耳にした。祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスを捕らえるために下役たちを遣わした。33そこで、イエスは言われた。「今しばらく、わたしはあなたたちと共にいる。それから、自分をお遣わしになった方のもとへ帰る。34あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない。」35すると、ユダヤ人たちが互いに言った。「わたしたちが見つけることはないとは、いったい、どこへ行こうつもりだろう。ギリシア人の間に離散しているユダヤ人のところへ行くと、ギリシア人に教えるとでもいうのか。36『あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない』と彼は言ったが、その言葉はどういう意味なのか。」

37祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。38わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」39イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている「霊」について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、「霊」がまだ降っていなかったからである。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

列王記下2章1～15節

1主がエリヤをつむじ風で天に上げられたときのことである。

エリヤはエリシャと共にギルガルから出て行った。2エリヤがエリシャに、「主は私をベテルまで遣わされるが、あなたはここにとどまっていなさい」と言うと、エリシャは、「主は生きておられ、あなたご自身も生きておられます。私はあなたを離れません」と答えた。それで、彼らはベテルに下って行った。3この時、ベテルにいる預言者の仲間が、エリシャのもとに出て来て言った。「今日、主があなたの主人を、あなたから取り去ろうとしておられるのを知っていますか。」するとエリシャは、「私もそのことは知っています。しかし黙っててください」と答えた。

4エリヤが、「主は私をエリコに遣わされるが、エリシャよ、あなたはここにとどまっていなさい」と言うと、エリシャは、「主は生きておられ、あなたご自身も生きておられます。私はあなたを離れません」と答えた。それで彼らはエリコにやって来た。5この時、エリコにいる預言者の仲間が、エリシャに近寄って来て言った。「今日、主があなたの主人を、あなたから取り去ろうとしておられるのを知っていますか。」するとエリシャは、「私もそのことは知っています。しかし黙っててください」と答えた。

6エリヤはエリシャに、「主は私をヨルダン川へ遣わされるが、あなたはここにとどまっていなさい」と言った。エリシャは、「主は生きておられ、あなたご自身も生きておられます。私はあなたを離れません」と答えた。それで二人は出かけて行った。7預言者の仲間五十人も付いて行ったが、二人がヨルダン川のほとりで立ち止まると、彼らも遠く離れて立ち止まった。8エリヤが自分の外套を取り、丸めて水を打つと、水は左右に分かれた。そこで二人は乾いた所を渡って行った。

9彼らが渡ったとき、エリヤはエリシャに言った。「私があるあなたのもとから取り去られる前に、あなたのために何ができるだろうか。何なりと願いなさい。」エリシャが、「どうかあなたの霊の二倍の分け前をくださいますように」と言うと、10エリヤは答えた。「あなたは難しい願いをするものだ。私があるあなたのもとから取り去られるのを見るならば、そのようになるであろう。しかし見なければ、そのようにはならないであろう。」11彼らが話しながら歩き続けていると、火の戦車と火の馬が二人の間を隔て、エリヤはつむじ風の中を天によって行った。12エリシャはそれを見て、「わが父よ、わが父よ、イスラエルの戦車よ、その騎兵よ」と叫んだが、しかしエリヤはもはや見えなかった。彼は自分の衣をつかんで二つに引き裂いた。

13エリシャは、エリヤの身から落ちた外套を拾い上げ、引き返してヨルダン川の岸辺に立ち止まった。14彼はエリヤの身から落ちてきた外套を手にとって、水を打ち、「エリヤの神、主はどこにおられますか」と言った。彼らが水を打ったときも、水は左右に分かれ、エリシャは渡って行った。

15エリコの預言者の仲間は、離れたところからエリシャを見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言った。彼らはエリシャを迎えに来て、その前で地にひれ伏し、

ヨハネの黙示録5章6～14節

6また私は、玉座およびそれを囲む四つの生き物と、長老たちとの間に、小羊が屠られたような姿で立っているのを見た。小羊には七つの角と七つの目があった。この七つの目は、全地に遣わされている神の七つの霊である。7小羊は進み出て、玉座におられる方の右の手から巻物を受け取った。8巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老はおのおの、堅琴と、香で満たされた金の鉢とを手にとって、小羊の前にひれ伏した。この香は聖なる者たちの祈りである。9そして、彼らは新しい歌を歌った。

「あなたは、巻物を受け取り

その封印を解くのにふさわしい方です。

あなたは、屠られて、その血により、神のために

あらゆる部族と言葉の違う民

あらゆる民族と国民の中から人々を贖い

10 彼らを私たちの神に仕える御国の民に

また祭司となさったからです。

彼らは地上を支配するでしょう。」

11また、私は見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は千の幾千倍、万の幾万倍であった。12天使は大声でこう言った。

「屠られた小羊こそ、力、富、知恵、威力

誉れ、栄光、そして賛美を

受けるにふさわしい方です。」

13また私は、天と地、地の下と海にいるすべての造られたもの、そして、そこにいるあらゆるものがこう言うのを聞いた。

「玉座に座っておられる方と小羊に

賛美、誉れ、栄光、そして力が

世々限りなくありますように。」

14四つの生き物は「アーメン」と唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した。

ヨハネによる福音書7章32～39節

32ファリサイ派の人々は、群衆がイエスについてこのようにささやいているのを耳にした。祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスを捕らえるために下役たちを遣わした。33そこで、イエスは言われた。「今しばらく、私はあなたがたと共にいる。それから、私を遣わした方のもとへ帰る。34あなたがたは、私を捜しても、見つけることがない。私のいる所に、あなたがたは来ることができない。」35すると、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちが見つけることはないとは、この人はどこへ行くつもりだろう。ギリシア人の間に離散しているユダヤ人のところへ行って、ギリシア人に教えるともいえるのか。36『あなたがたは、私を捜しても、見つけることがない。私のいる所に、あなたがたは来ることができない』と彼は言ったが、その言葉はどういう意味なのか。」

37祭り終わりの大事な日に、イエスは立ったまま、大声で言われた。「渇いている人は誰でも、私のもとに来て飲みなさい。38私を信じる者は、聖書が語ったとおり、その人の内から生ける水が川となって流れ出るようになる。」39イエスは、ご自分を信じた人々が受けようとしている霊について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、霊がまだ与えられていなかったからである。

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・5月12日「復活節第7主日」の日課主題は「キリストの昇天」。

・旧約聖書日課は、「列王記」から、預言者エリヤ昇天の逸話の箇所。使徒書日課は、「ヨハネの黙示録」から、巻物を開く小羊に関する幻を描く箇所。福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、仮庵祭のエルサレムでの逸話を伝える箇所。

旧約日課(列王下2章より)

・「列王記」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「前の預言者」の最後に置かれた歴史物語文書。ダビデ王の最期からユダ・イスラエルの両王国滅亡までを扱い、「歴代王の年代記」の様式で展開しているが、一部に「預言者の物語」が組み合わされて構成されている。元来、ユダヤ正典は、バビロン捕囚を経たユダ王国支配層の末裔がペルシア支配時代以降に「ユダヤ宗教共同体」を目指して編纂したものと考えられ、基本的にはダビデ・ユダ王国の視座に立っている。実際、「列王記」と並行する内容が多い「歴代誌」は、北王国(イスラエル)の歴代王についてはほとんど取り上げず、もっぱら南王国(ユダ)の歴代王の事績に関心を集中させている。それに対して、「列王記」は、北王国(イスラエル)が滅亡するまでの時代については、もっぱら北王国を中心に物語を展開させており、北王国滅亡後の時代になってようやく、南王国(ユダ)を物語展開の中心に据える構成となっている。「列王記」は、正典「律法と預言者」の一部として、バビロン捕囚からの解放後、ペルシア支配時代の比較的早い段階で編纂が進められたと考えられ、いまだイスラエル(北王国)とユダ(南王国)を一体的に見る「大イスラエル主義」が熟していない段階で、これを「ユダヤ宗教共同体」構想の中心に据えた集団が、両王国の独立した歴史を認めつつ、その一体化の必然性を主張することを一つの目的に編集したものではないかと推察される。歴史的に北王国(イスラエル)が南王国(ユダ)に対して常に優位な存在であったことは確実で、それゆえに、先に滅んだ北王国(イスラエル)から南王国(ユダ)が引き継いだ遺産(預言者の伝統?)があることを、本書は示そうとしていると考えられるのである。

・日課箇所は、「エリヤ物語」として知られる一連の説話(上17章～下2章)の最後にあたる。「預言者エリヤ」は、歴史上の実在性がはっきりしない伝説的な預言者であるが、続いて登場させられる「預言者エリシャ」の権威の源泉と位置づけられている。エリヤは、北王国オムリ王朝時代(前876～842年頃)に宮廷が重用したフェニキア系の「バアルの祭司集団」と対立した地方聖所祭司集団に属していた者として描かれている。当時のオムリ王朝支配領域の地方聖所権力は、独立性が高く、アラム王国など周辺国の王も含めて世俗諸王と政治的に渡り合っていたと考えられる。

使徒書日課(黙示録5章)

・「ヨハネの黙示録」については、資料「聖書と祈りの会 240417」を参照。

・日課箇所を含む4～20章は、パトモス島に幽閉された状態で主の日の礼拝をささげていた「僕ヨハネ」が、天からの呼びかけに応じて天に引き上げられ、天上で繰り広げられる天使らの礼拝や「小羊」を巡る幻を見せられた記録として展開している。

・「小羊(アルニオン)」は、新約中に30用例が数えられるが、「黙示録」のほかは「ヨハネ福音書」の最終章で一度(ヨハネ21:15)の用例が見られるのみで、残りすべてが「ヨハネ黙示録」の用例であり、その用例の最初が日課箇所5:6になる。この「小羊」は、「七つの封印」がされた「巻物」の提示と共に登場させられており、「小羊」が「巻物」と密接に結びついた存在として位置づけられていることがわかる。

・「小羊」の描写は、「七つ」という象徴的な数字を繰り返すところに特徴がある。「黙示録」全体の中で、「七」は、1～3章で取り上げられる「アジア州にある七つの教会」およびその象徴として提示される「七つの燭台」(1:20)で示されるように、「教会」と結びついた数である。天上に存在する「小羊」が、地上の「教会」を導く者であることを示そうとしているのだろう。その導き手としての「小羊」は、「巻物」の封印を解くことによって、「教会」を導く、と考えられていると言える。

・「巻物(ビプリオン)」は、新約中34用例が数えられ、内22例が「黙示録」に見られる。「黙示録」の用例は、1:11の用例を除いてすべて5:1以下にある。「ビプリオン」は、単体あるいは冊子状または巻物状にされた用紙や本そのものを指す語。新約中の類義語に「グラフエー」があり、「ヨハネ福音書」や「パウロ書簡集」などを中心に23用例が数えられるが、こちらは、原義が「書かれたもの」であり、文字で書かれた文書そのものを指すニュアンスである。

・「封印(スフラギス)」は、「しるし」(ロマ4:11)、「証拠」(Iコリ9:2)、「刻まれている」(IIテモ2:19)などとも訳される語。古来、金属で造られた印章を蠟や粘土に押印することによって、証書が作成されたり、重要書類に封印が施されたりしてきた。

福音書日課(ヨハネ7章より)

・日課箇所は、「仮庵祭」の祝われるエルサレムを訪れた主イエスが、人々の前で教え、また議論された一連の説話(7章～10:21)の一部。「ヨハネ福音書」全体は、大きな区分でユダヤの「祭り」を場面設定とすることによって、ユダヤの伝統としての「祭り」の意義を主イエスによって更新されたものとして描き出そうとしている。この「福音書」を生み出した「ヨハネの教会共同体」は、ユダヤ伝統主義を掲げた急進的「分派」としての自己理解を有していたと考えられ、他のキリスト者グループとは一線を画していたが、徐々に調停的な立場を取るようになったと考えられる。

・「仮庵祭」は、9～10 月頃に祝われる秋の収穫感謝祭が起源であり、「モーセ物語」中の「荒れ野の旅」の故事が記念される祭として整えられてきた。ユダヤ三大祭りの一つとして、今日でも最も盛大に祝われる。エルサレム神殿が建っていた時代、この祭のクライマックスとして営まれたのが、「水汲みの儀式」などと呼ばれる祭事であったとされる。祭りの二日目、エルサレム城外に設けられた貯水池から祭司が水を汲み、行列をして神殿境内まで運び入れ、祭壇に振りかけた。その際には、神殿各所に燈明が灯され、儀式と観衆を照らし出したという。日課箇所を含む「仮庵祭」場面の主イエスの言説には、これら「仮庵祭」で営まれた祭事が、主イエスという存在によって新たにされるという示唆が含まれていると考えられる。

・37～39 節の「生きた水」の言説は、「霊(Pneuma)」に関する言及であったと説明されている。「ヨハネ福音書」は、「イエスが受ける栄光のとき」を「十字架」に位置づけており、この言説に対応する描写が 19:28～30 に見出される。37 節で「渴いている人」に呼びかけて与えられる「生きた水」は、「人々が受け(ランバノー)ようとしている霊」であると説明しているが、19:28 では、十字架上の主イエスが 37 節「渴いている(ディプサオ)」と同じ語で「渴く」と言われ、その後、19:30「息を引き取られた」＝「Pneuma を引き渡された(パラデイドーミ)」と描かれている。つまり、十字架上の主イエスが「渴く者」のためにご自身の「霊」を注ぎ出して与えられた、と描かれており、日課箇所 37～39 節の説明に対応していることがわかる。十字架上で死なれた主イエスは、兵士に槍で突かれると「血」と共に「水」を流されたとも描写され(19:34)、ここにも日課箇所との対応が見られる。

来週の誕生日 (5 月 12 日～18 日)

主日礼拝の讃美歌から

・21-337 番「たたえよ、この日」は、18 世紀メソジスト派の始祖の一人 C.ウェスレーの作詞。原歌詞は 10 節までであるが、英語讃美歌集では適宜組み合わせられた節によって編纂されてきた。曲は、盲目のアマチュア音楽家 R.ウィリアムズの作曲とされるが、19 世紀の讃美歌集で作者不詳のまま「ウェールズの讃美歌曲」として組み合わせられて以来、用いられてきた。

・21-404 番「あまつましみず」(I 217)は、メソジストの救世学校(後の青山学院)で学んだ永井兎い子が『譜附基督教聖歌集』(1874 年)の編纂に際して作詞した原詞が改変されて歌い継がれてきた。曲は、当時の米国の福音唱歌曲から。

・21-452 番「神は私を救い出された」は、米国聖公会司祭で現代の北米讃美歌学会を代表するカール・ダウがイザヤ 12:1～6(イザヤの歌)に基づいて作詞、教派を超えて広く採用されてきた。曲は、現代米国の教会音楽家アーウィンが友人の結婚式のために作曲したものが転用されている。

・21-564 番「イエスは委ねられる」は、マタイとルカにある主イエスの宣教命令を歌う新しい讃美歌。原曲の 1,2,5 節が採用されている。作詞者ローソンは英国教会の司祭から米国聖公会に転じて大学で礼拝学を教授。作曲者テイラーは 20 世紀英国教会の司祭で、王立協会音楽学校のチャブレンとして歌集編集や作曲、新しい讃美歌の普及に貢献。

21-337「たたえよ、この日」

Hail The Day That Sees Him Rise

1. Hail the day that sees him rise, Alleluia! / to his throne beyond the skies. Alleluia! / Christ, the Lamb for sinners given, Alleluia! / enters now the highest heaven. Alleluia!
2. There for him high triumph waits; Alleluia! / lift your heads, eternal gates. Alleluia! / He has conquered death and sin; Alleluia! / take the King of glory in. Alleluia!
3. Highest heaven its Lord receives; Alleluia! / yet he loves the earth he leaves. Alleluia! / Though returning to his throne, Alleluia! / still he calls us all his own. Alleluia!
4. Still for us he intercedes; Alleluia! / his atoning death he pleads, Alleluia! / near himself prepares our place, Alleluia! / he the firstfruits of our race. Alleluia!
5. There we shall with you remain, Alleluia! / partners of your endless reign, Alleluia! / see you with unclouded view, Alleluia! / find our heaven of heavens in you. Alleluia!

21-452「神は私を救い出された」

Surely it is God who saves me

1. Surely it is God who saves me; / I shall trust and have no fear. / For the Lord defends and shields me / and his saving help is near. / So rejoice as you draw water / from salvation's healing spring; / in the day of your deliverance / thank the Lord, his mercies sing.
2. Make God's deeds known to the peoples: / tell out his exalted Name. / Praise the Lord, who has done great things; / all his works God's might proclaim. / Zion, lift your voice in singing; / for with you has come to dwell, / in your very midst the great and / Holy One of Israel.

21-564「イエスは委ねられる」

Lord, You Give the Great Commission

1. Lord, you give the great commission: / "Heal the sick and preach the word." / Lest the church neglect its mission, / and the gospel go unheard, / help us witness to your purpose / with renewed integrity: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
2. Lord, you call us to your service: / "In my name baptize and teach." / That the world may trust your promise, / life abundant meant for each, / give us all new fervor, draw us / closer in community: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
3. Lord, you make the common holy: / "This, my body; this, my blood." / Let us all, for earth's true glory, / daily lift life heavenward, / asking that the world around us / share your children's liberty: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
4. Lord, you show us love's true measure: / "Father, what they do, forgive." / Yet we hoard as private treasure / all that you so freely give. / May your care and mercy lead us / to a just society: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
5. Lord, you bless with words assuring: / "I am with you to the end." / Faith and hope and love restoring, / may we serve as you intend, / and, amid the cares that claim us, / hold in mind eternity: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.